NARO Research Prize 2008

表 彰

汎用型飼料収穫機

志藤博克[1)]、橘　保宏[1)]、川出哲生[1)]、高橋仁康[2)]（[1] 生物系特定産業技術研究支援センター・畜産工学研究部、[2] 近畿中国四国農業研究センター・中山間地耕畜連携・水田輪作研究チーム）

研究の目的・背景等

水田飼料作は府県の重要な位置を占めるが、降雨の影響を受け易く作業が困難になる。一方、コントラクタにとっては、飼料作物別に機械体系が必要で、多大な負担がかかる。そこで、多様な飼料作物を軟弱な圃場条件でも1台で収穫・細断・ロール成形できる自走式作業機を開発する。

研究の概要

開発機は、飼料作物の収穫部、成形室（直径1m、幅0.85m）、ネット式結束装置、及びクローラ式走行部から構成され、収穫部はトウモロコシ用、予乾牧草用、飼料イネ用の各アタッチメントを工具なしで着脱できる。開発機の圃場作業量は、トウモロコシ（乾物収量1.6t/10a、含水率70%、30a圃場の時）で42a/h、予乾牧草（乾物収量1.2t/10a、含水率52%、30a圃場の時）で90a/h、飼料イネ（乾物収量0.8t/10a、含水率57%、25a圃場の時）で29a/hである。また、貫入抵抗値が0.36MPaの軟弱圃場においても作業速度0.76m/sで作業可能である。

志藤博克　橘　保宏　川出哲生　高橋仁康

農研機構 NARO 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構